



祐介の目

No.152

大田祐介（福山市議会議員）

てもらい聖域無きダウンサイジングを実施したそうだ。

美咲町の少子高齢化や人口減少などの状況は、日本の2〜30年後の将来推計の姿であり、将来多くの自治体が等しく取り組むべき

課題の最先端を走っていると感じた。福山市も浸水対策や渋滞対策等のインフラ整備に多額の投資を行っているが、これが将来的な負動産とならないようにしたい。しかし、自治体の会計は単式簿記ゆえに減価償却という概念が無い。そのため目の前の課題を見て事業に取り組み、後の維持管理や更新費用を忘れていないか。

例えば福山道路、多治米川口という住宅密集地を通過する計画だが、数百軒の立ち退きが生じる予定だ。現地に行けばわかるが、相当な難事業になること間違いない。確かに現状の2号線の渋滞は酷いが、バイパスが完成する頃には人口減少や自動運転の進化により渋滞は解消されているかもしれない。事業実施するならルート変更は必須だ。

渋滞対策は車のナンバーの下一桁と日にちが合致する日は運転を自粛する考えもあるそうだ。これで毎日1割の交通量が減ることになり、公共交通も生き残るだろう。

岡山県美咲町

私の母方の祖父は美咲町出身だ。祖父はかつて天皇陛下がお催しになった歌御会に呼ばれ、その際に詠んだ和歌の歌碑が桜の名所・三休公園にある。子供の頃からよく通った美咲町は私の第二の故郷だ。先日、日本自治創造学会に参加した際に青野高陽町長による「賢く収縮するまちづくり」という講演を拝聴した。人口減少率が岡山県ワースト1の美咲町にもかかわらず多くの公共施設や道路等のインフラを抱えている現状があり、これらをいかに整理統合するかという内容だった。当初は住民も議会も総論賛成・各論反対であったとのこと。例として町営の温泉は利用者負担一人250円に対して町の持ち出しは千円であった。今まで毎日温泉に通っていた住民は家庭の風呂が使っていないかったという。これを廃止するのだから反対運動も激化した。住民にも「自分ごと」と考え